

# 山と博物館

第 8 卷 第 7 号

1963年8月25日



## 人工孵化のライチョウ

7月4日 ライチョウの人工孵化成功 採卵許可のおりた4卵のうち人工孵卵器の2個がかえったもので、仮親に抱卵させた2個は無精卵1、他の1個は孵化直後死亡。

孵化した2羽のうち、1羽は30日目、他は45日目に落命した。

# 資料 白馬岳小史 (2)

長 沢 武

白馬連峰史料年譜  
今回は手もとにある資料の内から、白馬連峯の開発史

に関係あるものを拾い、その要点を簡単に年代順に記し  
白馬岳開発の流れのアウトラインを摺むこととする。

紀 元	年号 年月	記 事
1383	永徳3 6	飯森城主日向守春盛、八方池西畔に飯森神社奥宮(石造2×2.5尺)建立(田中文書「飯森神社取調」明治15年)
1574	天正2	南小谷源長寺開祖、洞光和尚が地藏菩薩を大日岳山頂に祠ったと伝えられる。昭和10年7月三国境で発見のものはこれか(昭和10年7月信毎、中部山岳第15号他)
1584	天正12.11	富山城主佐々成政針ノ木越えて遠州浜松の家康のもとにゆく(「太閤記」万治元年他)
1588	〃 16.10	沢渡九八郎盛忠、沢渡神明宮再建す。(棟札現存す)
1598	慶長3.2	加賀藩主前田利家侯、浦山村の百姓松儀伝右衛門を召し、奥山の状況を聞く。
1617	元和3	越後高田藩主、越後中将忠輝、蓮花銀山に着目、見分登山をせしむ。 (山岸文書、寛政12年3月)
1640	寛永17.12	前田利常侯、新川郡浦山村、老百姓松儀伝右衛門に奥山廻りの役を命ず。以来黒部奥山は御縮山として立入禁止区域となった。
1644	正保1.12	幕府全国に郷村高帳及び国絵図諸城の図作成を命ず。
1646	正保3	幕府が全国に命じた「分国絵図」に「れんげ山銀山有」と附記している(越後) 信州の絵図には、鎗ヶ嶽、薬師ヶ嶽、乗鞍嶽が載っている(乗鞍嶽が3ツある)(信府統記)
1648	慶安1.春	利常侯江戸城より帰城の途、道を根知越にとり、姫川上流大所村に一泊。黒部脊後の地勢を見、土地人より鎗嶽路を越え容易に黒部に出らるゝを聞き、帰城後すぐ、芦くら村の佐伯十三郎父子を召し、小松城出任を命ず。(「微妙院候御夜話」山本源左衛門編享保9年)
1648	慶安1.7	十三郎父子、利常侯の命により特派奉行3人を案内し黒部奥山踏査、針ノ木峠までの道程を測量(芦くらからさらさら越えて野口村馬留まで調査)(十三郎由緒書)
1649	〃 2	松本城主水野侯、諸方面に山廻り役を置き、山林の治警保護に任せしむ(南安曇郡誌)
1688	元禄1	松本領一本木村の者12名、越境して立山詣、室堂にて加賀藩側の取調を受く。
1693	〃 6.6~8	奥山廻り役宗兵衛一行、上下奥山を繞いて巡視する。下奥山は6/18~7/2上奥山は7/23~8/14(宗兵衛記録)
1697	〃 10.2	幕府全国大名に各国明細全図の提出を命ず。
1699	〃 12	下奥山廻り役は今迄の上駒嶽止りでなく、鎗嶽に登頂し展望の素晴らしいことを知り以後三国々境の峯として見分けの主点となる。
1699	〃 12.3	新川郡小川湯より槍嶽へかゝり、山峯谷を越え越後の国大所村と申す所へまかり出申すに路と申すに候……(奥山廻後宗兵衛留書)
1699	元禄12.8	7/27~8/14 境川~駒岳~柳沢谷川~上駒岳~鎗岳で越後、信州境を見分ける。 (奥山廻後宗兵衛留書)
1700	〃 13.4	越中信濃境槍嶽より信濃国裏迄4里程、その他に道なく候……ヤリ岳より信州にまかり越す道、御絵図に道かたなく候ども先年、三郎左エ門信州へまかり越し申し候時この道を通り候。然しざら越え当時にきわめたる道はなく候。小川湯より大所迄20里程の内、小川より越後境迄17里。(奥山廻後宗兵衛留書) この頃三国境はヤリ岳として絵図にも載っている。「ヤリヶ岳東信濃、西越中、北越後」(立山禪定並後立山黒部谷等略絵図)
	元禄13.3	加賀藩、奥山廻り役を藩庁に召し、奥山境目山の実相を諮問し、絵図を修正せしむ。
	〃 13.4	「奥山御境目見通絵図」できる。不帰、ヤリ、上駒、ゆきくら、はち、糸ぶり嶽等載っ

		ている。
1702	ク 15.12	「信濃国絵図」できる。大きさ10畳敷程、正保図のゑびらが峯、横前倉、乗鞍嶽の位置誤れるを修正、雨飾、真那板山を加う。(信府統記)
1715	正徳5	糸魚川の俳人九蛙が俳書「糸魚川」に(蓮花銀山「先白き蓮花山とも木樺とも」。)と記している。
1722	享保7.5	「享保の山見通し」松川入の山論、細野村と塩島村、新田村との争い9年間続き、この年遂に幕府の役人出張、乗鞍嶽に見分け登山す。人夫1200余人を出し路のやぶ伐りをする。(栗田記録、信府統記)
1724	ク 9.6	大和国杉村万蔵、夏の間土人を使い蓮花銀山に着手したが、深山故不成功、夜逃げし賃銀不払いで大損害を受く。(「山岸文書」寛政12年)
	ク 9.12	「信府統記」完成。五六、げんのう、鹿島、餓鬼、平川鎗、乗鞍、風吹、横前倉、ゑびら峯の山名を見る。
	ク 9	「微妙院候御夜話」山本源左衛門編完成。
1726	ク 11.7	「大平村より下奥山相廻申覚帳」内山村三郎左衛門、7/9 水上谷泊り、上駒岳へ登り「越中新川郡上駒岳水流切越中越後両国境山」と巾4寸長さ2尺厚さ1.3寸の板の標木に印し、白馬山頂の岩穴に隠し置き即日帰宅す。
1738	元文3.3	「松川入山論」細野、巖平、大出村と塩島村新田村との山争い9年前より続きそれぞれの主張異なる。
1744	延享1.8	「千曲之真砂」巻の9、瀬下敬忠著「飯森より塩島新田へ一里、この間松川という荒川あり、川源は越中立山より出で、姫川と落合なり……」
1770	明和 7	「信濃地名考」吉沢好謙輯、有明、コイ、ガキ、神明、五六、ケンノフ、ヤリ、ヤクシ、ノリクラ、風吹の山名が絵図にみられる。(山岸文書)
1781~ 1789	天明 年間	奥山廻り役の引率人夫は従来8名位で巡視日数は15日位であったものを30名位25日位とし奥山の取締りを厳重にする。(三吉事件等盗伐の影響による)
	天明7	上下奥山への巡視は一年交代となる。(佐伯記録)
1800	寛政12.3	蓮花銀山につき高田藩から諮問あり、地元は杉村万蔵のながい経験があるので遠廻しに否定的な回答をする。
1801	享和 1 1.6 享和年中 文化初頭	「雲遊彼録」関赤城著に「聞蓮花山出銀」とある。 大日岳山頂の大日如来石像建立。 「奥山御境目見通山成川成御絵図」
1808	文化5	「奥山御境目並谷々川筋等略絵図」以上二図はいづれも鑓嶽が三国境となっている。石黒信由「新川郡立山之御縮山之図」越中方面の絵図中初めて大蓮花、小蓮花の山名見ゆ、以後長く奥山図の基となる。(明治30年頃迄)ここで鑓嶽に変わって上駒が三国々境の地位につく。(これはこの頃越後との交流ようやく進み、越後名が越中に知られたもので、地理、山容も解りかけてきた。)
1814	ク 11 文化 年中	「新川郡御用留疚書」加賀藩医、城川哲周が山廻りを20人に増し、番方方薬草黄芩を取らせようと申し出る。(文中、奥山黒部東向越後信濃御境辺御林に他国者盗伐等の儀前々より風聞之有候とある) 下奥山廻り巡視は、此の頃より祖母谷から餓鬼沢、東沢を経て鹿島槍(後立山)にまで足を伸ばしている。(「三州測図」にルートが載る)
1815	ク 12.4	「笹川村縮方並山絵図」伊東次郎衛門、「越後御境へ上駒岳マデノ所、此ノ辺モ信州御境同様ニ山深ク通路一切ナシ。境関所ヨリ一里半程上ニ大平村ト申ス所アリ、村下ニ越後荒沢川落合、ソレヨリ下モ境川ト申候」
1819	文政2.1	石黒信由加賀藩の命を受け、三州測量図籍の作成に着手。(文政7年草稿完成、天保6年浄書完成、全12冊、後立山の実測は主として奥山廻り役脇坂太郎右エ門が担当、文政5年石黒翁と協力して作成)
1820	ク 3.8	鈴木魚都里撰「改正越後国頸城郡細見図」に蓮花山、大蓮花、茶臼、蓮花菱、乗鞍嶽見ゆ。

1823	〳 6.4	千国村対塩島村、新田村との間に山地草干場境界争起り8年間続く。
1824	〳 7.3	同上山論の古文書及大添絵図、西沢横沢両家にあり、「子孫末々迄右為心得残置者也」とある。図中の興味は千国村と塩島村との、山名地名の呼称が異なることである。鎗ヶ岳、薬師岳、両替岳、白馬岳、嶽ノ大池、乗鞍岳等見ゆ。
1825	〳 8.4	「横沢家伝来絵図」えぼし嶽、鎗、薬師、両替、白馬、蓮花、乗鞍、鴨鳥峯、阿弥陀岩麓、中山等見ゆ。
1828	〳 11	蓮花銀山は越後国門前村源左エ門の手に移る。
1830	〳 13	千国村対塩島村の山論解決する。
	文政 年間	「増補大路水経」石黒信由著に、新川郡境を「信濃国境点14里10丁、山地、鷲羽岳ヨリ上駒岳南方、越後境9里6丁山地、上駒岳南方ヨリ北海迄」さすがの信由翁も上駒と蓮花岳が同一の山であることを知らず、ヤリ岳に大蓮花の山名を与えている。
1835	天保6	「三州測量図籍」完成、大蓮花、小蓮花、不帰、上駒、雪倉、清水峯、後立山、餓鬼赤鬼、上丈、錫杖嶽の山の他、コイド〜杉谷〜猫又〜上駒岳。祖母谷〜清水〜上駒岳。祖母谷〜東谷〜後立山のルート見ゆ。
	〳 6	蓮花銀山は越後国稲塚村、彦左衛門の手に移る（「新助口書」天保11年）
1837	〳 8	松本藩堀江有忠、山方御役所勤務。以後20余年勤む大町の木場所、御陣屋に常勤同心として毎年藩林巡視す（山方奉行は7年に一回）（山岳8年第3号）
1838	9	江戸西丸焼失、再建に付御用材を黒部奥山祖母谷附近から伐出す。請負人は江戸の中村屋七兵衛で、白馬を越し細野へ出す。「新川郡山地絵図」に御造営ノ刻削300人内26人デ伐出ス」とある。
1840	〳 11	池戸の俳人鳳朗「続砺波山集、続有磯海集」に「糸魚川の左へ蓮華岳頂ヲ発シ……」とある。
	〳 11	蓮花銀山は豊後国金山師善九郎により試掘し出鉱を見る。この時蓮華温泉開湯す。（「山岸文書」天保12年）
1842	〳 13.8	「蓮花山等大所村領絵図」これは蓮花山雪倉銀山試掘の折、鉱区設定のため藩へ出したもの、山岸七兵衛作。大蓮花、中蓮花、蓮花、前蓮花、乗鞍嶽見ゆ。
1843	〳 14	善九郎の後を高田春日町、高橋孫左衛門がつぎ、採鉱を長く続けた。（「高橋文書」明治17年）
	〳 14	佐伯有次郎「黒部下奥山御境目廻御用方描写手帳」大平村から下駒に登り、小川温泉〜北又〜柳又〜祖母谷を廻り鹿島槍に登ろうとし、祖父谷踊場より餓鬼谷を経て東谷に出たが雪多きため引返し、蓮花山へ登り、清水、五枚尾を経て下山、一行10数名、6/27〜7/19、山中で盆踊りをしている。この頃より下奥山廻りはヤリへの登はんを中止し、白馬山頂で充分見分けできるので蓮花山を見分け登山の終点とするならわしとなった。
1845	弘化2	孫左エ門は武蔵国、中野村、金山師音吉をつれて来、事業継続の許可を受け、孫八が文久2年7月江戸で歿するまで続けた。（「高橋文書」明治17年）
1846	〳 3.3	孫八は蓮花温泉に浴舎を建てる。合せて硫黄の採集もしようとしたが、村民の反対でこれは中止する。
	弘化末〜 嘉永初	松本藩堀江有忠、藩内山岳模型を大町木場役所で作る（3尺×3間）此の頃有忠はしろま岳の名を知っていた。（山岳8年第3号）
1849	嘉永2.6	奥山廻り役佐伯有次郎一行巡視。有峯から鷲羽岳に至り国境山脈を縦走して針ノ木峠に国境見分けの標木を立て、平〜スクイ谷〜御山谷〜立山〜松尾峠で戻る。
1854	〳 7.8	小田島充武「越後野志」「姫川古名姫早川と云、源平盛衰記其他古書に見ゆ、川上17里許に飯田村、池原村と云う山村あり、信州松本近辺に姫ヶ嶽と云う山より久世川松川、平川と云う三水流れ出、右二村の間にて合同するを姫川と云う、山名依て名付」とある。
1848〜 1865	嘉永〜 元治	森田柿園編「国事雑抄」所々に山岳記事断片あり、加賀藩の黒部奥山取り締り状況がうかがえる。

- 1856 安政3 竹内常右エ門「下奥山日記」(杏文庫蔵)  
文久年中 長野仁童堂「改正信濃国細見全図」マスカ岳, ケンノウ山, ヤリ岳, 乗鞍岳, 風吹山  
見ゆ, 旅行に便なるよう48×29cm 4色刷
- 1863 〃 3.7 「越中国新川郡村々組分絵図」射水郡高木村, 藤右衛門製図。石黒信由氏の測図に基  
いたもので, 大蓮花, 小蓮花, 不帰, ヤリ, 上駒, 雪倉, 鉢, 赤男, エブリ, 黒岩嶽  
見ゆ, 上駒嶽より大所村に至るルートが記入されている。
- 1867 慶応3 天狗池畔及八方池畔の地藏菩薩石像建立。八方池のものは長谷院19世が風除地藏とし  
て上げたもの。
- 1868 〃 4.6 佐伯新左エ門「黒部」奥山御境目廻御用描手帳「小川温泉〜北又〜慳なき〜清水平を  
経て蓮華山に登る(姫川, 丹波島見える。とある)此の頃は越中人も蓮華山と呼ぶよ  
うになっていた。
- 1868 明治1 明治維新, 黒部奥山の御縮山の禁解く。文明改化の時代来る。
- 1870 〃 3.9 金沢藩, 山廻り役を廃止。
- 1875 〃 8.2 上野尚志「信濃村名尽」穂高以北の山として絵図を添え, 神明, 有明, 餓鬼, ヤリの  
山名あり。  
〃 9年頃 「新潟県下越後国全図」蒲原郡の一部が若松県下になってい, 乗鞍山, 蓮花山, 雪倉  
山が三国境附近に記入されている。
- 1876 〃 9.7 ヤリ温泉引湯工事始める。同年9月23日(太陽曆11月8日)地元6人を含め夫夫21人  
雪崩で死亡。  
〃 9.8 窪田重平編「村里撮要」平村に西官山, 鎗嶽, 祖父嶽, 乗鞍, 隠里, 五六, 布引, 蓮  
花, 北鎗。神城村に大里嶽。北城村は有名山ナシ。千国村鎗, 薬師, 乗鞍, 風吹, エ  
ビラ(西は鎗ヶ嶽界)とある。
- 1878 〃 10.6 県庁蔵版「長野県治一覽概表」横前岳(越中, 越後界)その南に鎗ヶ岳, 有明山, 神  
明岳(越中, 飛騨界)烏帽子が, ケバ法で画かれている。
- 1878 〃 11 田中, 津田共編「新潟県下管内地誌略」の附図には三国境はヤリ岳とあり, 「朝日,  
雪倉岳は越中の境にして, ヤリ岳は信濃境に聳立す, 土人之を蓮花三本ヶ岳と云」と  
ある。
- 1880 〃 13.3 森田鼎編「信濃地誌略字引」「有明山, 四五六嶽, 烏帽子, 祖父, 大黒, 天狗, その  
後方に鹿島山あり, 薬師, <sup>ハクバ</sup>白馬, 蓮華山, 雨飾山又餓鬼, 屏風嶽あり。」(こゝで注  
目すべきはハクバと振りがなをしてあることである。)  
〃 13 丸山俊彦編輯「信濃明細全図」蓮華岳がなく白馬岳となっている。
- 1881 〃 14 サトウ, ハウス共編「中部及北日本旅行案内」刊。日本アルプスの名がはじめて印刷  
された文献。  
〃 14.11 栗木佐一郎編集「新潟県管内実測図」三国境はヤリヶ岳を描き, 北へ大蓮華, 雪倉岳  
を画く。
- 1882 〃 15.11 丸山清俊編「信濃地名一覽」神城村。大黒岳, 北城村。祖父岳, 五六岳, 白馬岳。千  
国村, 乗鞍岳。北小谷村, 雨飾の記載を見る。
- 1883 〃 16 北安曇郡長窪田畔夫, 大町小学校長渡辺敏は他に一校長と白馬岳登山す。これは自然  
の偉観に接し, 身心を鍛練する目的であった。
- 1884 〃 17 松村博士雪倉岳附近でムシトリスミレ発見す。(山岳2年1号)
- 1885 〃 18 「長野県管内信濃国明細全図」蓮華山の外に白馬岳の記入あり。
- 1888 〃 21 陸地測量部発足。英人宣教師で登山家のウエストン氏来日。
- 1889 〃 22.7 永井独楽造編輯「新潟県管内新独立町村区画図」にも三国境はヤリ岳とし, 北方には  
只一つの朝日岳の記入あるのみ。  
〃 22.4 天狗池畔の地藏尊供養。塔婆あり。「維持明治22年4月8日」  
〃 22 信濃教育会編「長野県地図」白馬岳を蓮華岳としてある。

# 南アルプスの動物

## 1 カモシカ

## 三石 紘

登山者A：あのスズメみたいな鳥、なんて鳥かしら？

登山者B：山にいるからヤマスズメよ。

登山者C：あらノワタシの投げたパンクズ食べてるノワリと人づれしているのね。

登山者X：アツ…ネズミ、そこ、そこの岩陰に入ったぜ。

登山者Y：よし、石を投げてみる(しばらくして)アツ出て来た。

登山者X：ネズミにしては、ばかに胴が長いなあ。

登山者Y：山に住んでるから栄養失調なんだよ。

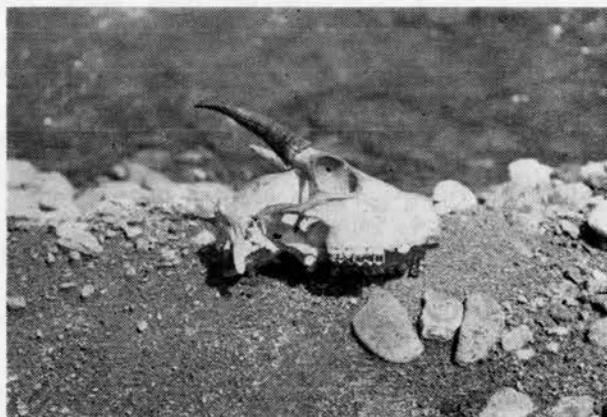
以上は甲斐駒山頂で耳にした会話である。もちろん前者はイワヒバリ、後者はヤマイタチのことを云っているのだ。この例でもわかるとうり、南アルプスを歩くと動物に逢う機会が多い。

南アルプスでは、3000m級の巨峰がたくさん並んでいるのにもかかわらず、北アルプスのように登山者がおしかけない。私が今年の夏出掛けた鋸岳の稜線や地藏尾根などは、登山道にクモが巣をかけている仕末であった。などと書くと、北アの槍や穂高の混雑を経験した人はマユツバ物に思うかもしれないが本当の話である。このように登山者が入らない理由は幾つか考えられる。第一にアプローチがどのコースもうんざりするほど長く、おまけに展望が全然きかぬ。次に山頂と山頂との距離がこれまた長い。第三に山小屋の便が悪い。第四にスッキリした岩場が少く、ロッククライミングの対象になるのは北岳のバットレスか甲斐駒の摩利支天ぐらいで、これもアプローチが長い。等々数えればきりが無い。しかしこれらの悪条件は裏をかえせば、動物たちにとっては絶好の棲息場所だといえる。豊富な森林、深い谷、おまけに登山者の少ない南アルプスは、ツキノワグマ、サル、カモシカライチョウなどの動物たちにとって別天地であり、人間に対する最後の砦なのだ。

私は仙丈岳の登山に、市野瀬の小さな学校に勤務している関係で、しばしばこの動物たちの楽園、南アルプスを訪ずれる。そして比較的多くの種類の動物に逢う機会もあった。そのうちでもカモシカとの出逢いは特に印象深い

### 北岳の稜線にて

学校の裏手には、仙丈岳に流れをはっする三峰川が流れている。今では上流に出来たダムのため水量は少ない。夏になるとこの河原で、美しい声でカジカガエルが鳴く子供達の話によると、私の来る前年の秋、この河原にカモシカが現れたそうだ。これを見つけた子供や教師は



カモシカの頭骨

夢中で教室を飛び出したので、カモシカの方が驚いて松峯の方向に逃げて行ったという話である。私はこの話を聞いて数日の間、三峰川の河原が気に入り、授業に身が入らぬ始末だった。

私はこの話を聞いた年、二度カモシカに逢うチャンスをつかんだ。一度は夏の北岳であり、二度目は塩見岳の山麓である。

両股小屋から、コマツガやシラビソの枝や根をつかんでの急登6時間あまり、北岳山頂を目前にした岩尾根での出来ごとである。前方の登山者が突然カモシカだ、と叫ぶ。夢中で私は声の方に走る。こんな時はフラフラしていた腰もシャンとするから妙である。とにかく登山者が指さす方を見る。確かにいる。前方300mぐらゐの急峻な岩上に一頭。急いでザックからカメラをとり出し立て続けに3、4回シャッターをきる。しかし標準レンズ付のアサヒ・ペンタでは、カモシカはファインダーに芥子粒程にしか入らない。幸にもカモシカは全然動く気配がない。私はそろりそろりと岩とガケの急斜面を200mばかり降りる。これ以上はザイルなしではとても無理だと思う時、うまいぐあいにテラスがある。しずかに腰をおろす。相手はまだ動かない。この位置から相手まで100m程度の距離である。時計を見ると10時15分。

カモシカの立っているのは、白根御池とバットレスの中間に位置する岩場。附近には少しコマススキがあるだけで、もしカモシカを観察するのじゃなかったら、私などとてもよりつける場所ではない。10時25分、やっと頭を前方にむけ、コマススキ(エソスカススキ?)をゆっくり食べる。しかし食べながらも私が気になるらしく、時々顔を上げて私を見つめる。風が吹くたびに背中中の白い毛がフサフサめれる。数年前まで登山者の腰にブラ下って

いた尻皮を思い出し、これは生きていた本物なんだ…なんて考える。

10時30分：私は観察しながらえさずシャッターをおし続けた。しかし望遠レンズのない悲しさ、100mの距離でもまだ芥子粒だ。カモシカの生態写真は今までに全然と云っていい程ない。だからライチョウ調査の時のように135mmから500mmまでの望遠レンズが自由に使えたら傑作が幾枚も撮れるのに実に残念だ。

「カモシカのようにすばやい」のたとえがある。また私が以前に聞いたカモシカに逢った話では、発見すると同時にカモシカは逃げて見えなくなるといふことだ。相手がいつ逃げるか、いつ逃げるか、観察しながら、それはばかり気になった。ところが相手のカモシカは実にはのんびりしている。そこで安心してタバコに火をつける

10時45分：やっと動きはじめる。たとえとは反対に、のろのろと5mばかりトラバースする。足下の岩がガラガラとくずれる。そしてパットレス側の岩陰に姿を消した。

姿を消してから気が付いたのだが、約30分の観察中、タバコをふかす余裕がありながら「オドリの実験」をするのを忘れていた。「オドリの実験」というのは、ライチョウ調査の時聞いた話で、カモシカに逢ったら、おかしなおどりをすれば、カモシカは好奇心の強い動物だから近よって来るというのである。観察中、この実験が成功して、カモシカが私のそばに来れば、なにも望遠レンズがなくても、傑作写真は撮れたはずなのである。しかし、私の坐っていたテラスは、おどりなんかおどったら転落する程せまかったし、この実験の成功率はあまり高そうではないので、結局私は実験しなくてよかったのかもしれない。

#### 塩見岳山麓にて

三峰川上流の戸草から、塩見岳の山麓の荒川渡までは今年の七月末まで営林署の森林鉄道が通じていた。昨年の秋、この軌道を利用して、二兎山の近くにある小瀬戸の鉱泉へ、紅葉狩をかねて行った時、再びカモシカに逢うことができた。

小瀬戸の湯で汗を流した翌日、私たちは荒川渡から北荒川の源流の方まで、溪谷の紅葉の美しさを満喫しながら散策した。清流には色とりどりの落葉が美しい紋様を作りながら流れ、時々イワナの影がスツツと動いた。土地の猟師の話によると、この辺はクマやカモシカが多いということなので、私は内心、動物たちに逢えるのではないかと期待していた。しかし北荒川の溪谷ではそのチャンスに恵まれず、下りの軌道に乗った。

ところが台車(土地の者は森林鉄道を走る車をこう呼ぶ)が、三峰川と荒川との合流点、荒川鉄橋にさしかかった時である。乗客の一人が三峰川の河原を指さして、「こんな山奥に犬がいますよ」と云う。水の少ない河原を

走り、コメツガの林に消えた。小さなムク犬ほどの動物が、まさかそのときはカモシカとは思ってみなかった。しかし、前方の軌道の上にまたその動物が、現れるではないか。それはまぎれもなくカモシカだった。ちょうど10mばかり前を台車に追いかけるようにして、子供のカモシカがかけて行く。乗客は総立ちでこの台車とカモシカの競争を見まもった。やがて懸命に走るカモシカが勝って、台車との距離がどんどん広がり、ブツシュに飛込むことにより、この奇妙な勝負は終わった。

これは一瞬の出来ごとだったが、私は走っているカモシカのオレンジ色の毛が、跳躍するたびにゆれていたのを今でもはっきり記憶している。

北岳のカモシカは、上面が灰黒色で毛が相当長かったこんどのは北岳の個体の3分の1程の子供で、毛はかなり白ぼかつた。そして角は太く短く、お世辞にもスマートとは云えず、ちょうどヒツジの子供の様なスタイルを想像してもらえばよい。

#### カモシカの頭骨によせて

学校の標本室に奇妙な頭骨が、埃をかぶっていた。ほこりを落してよく観察すると、角と角の間に「昭35・6・29南アルプス産」とある。どうもカモシカの頭骨らしい。図鑑で調べたらやはりそうだった。昭和35年と云えば今から3年前である。天然記念物で捕獲が禁止されているはずだが…。少し肉片が付いているところからみると、山中でひろったのではない。とすると密猟だろう。

最近出版された「アルプスの主・嘉門次」によると、嘉門次は、働きざかりにはカモシカを一冬に50頭前後とったそうだ。現在ではそんなことは法的にも技術的にも不可能であるが、まだ相当量のカモシカが犠牲になっているらしい。私の学校の頭骨などは、永山の一角にすぎない。

浦の原ヘスキーに行った折、1日にクマ1頭とイノシシ2頭をたおしたと云うベテラン猟師の話では、仙丈から塩見にかけての信州側の森林帯には、カモシカがよく出没するそうだ。これは私の想像だが、クマやイノシシを打ちに行っても、もしカモシカが現れれば保護動物とは知りながらも、引き金を引いてしまうことがないとは限らない。そして、その場で、肉と毛皮にバラして、里に帰ったら雪崩で死んだと云えはすむのだ。このことはオオハクチョウをカモと間違えて打つのと同様、全然ないとは断言できない。

私は昨年、鳳凰小屋で、カモシカが年に5頭ぐらい雪崩で死ぬという話を聞いたが、これは密猟者の言訳の様な気がする。

いくら天然記念物として法的に保護されていても密猟がある限り、将来姿を消す可能性は大きい。積極的な保ゴ、増殖が望まれる。

(伊那里小教諭)

## ホホアカ

長 沢 修 介

昨年の夏、或る友人から私の家の田の畔に見たことのない珍しい鳥が巣を作り草刈りの時に見付けたのでそこで草を刈らずに残しておき朝夕の水の見廻りにもそとよけて歩いて外から見守っていたら1ヶ月位して無事巣立った。雀より少し大きくヒバリのような美しい囀りをし、尾の外側が白い……あれは一体何という鳥でしょう?と相談を受けた。それだけでは一体何の鳥なのか私にも解らず、飛び方はどうでした。巣の大きさ、卵の色等なるべく特長のあった所を聞いてみたが要領を得ず大体ホホジロ属の鳥であることが判明したのみであった。その時私は今年それだけ保護してやったのなら必ず来年もその附近に巣を作るからもし来年もその鳥が来たら知らせて下さい。出掛て調べましようといつて別れそのことはすっかり忘れていた。

今年になって6月の初旬に戸隠や志賀の探鳥会が終つて5日振りに家へ帰ると今年も巣を作ったからぜひ来て見て欲しいとの連絡があったと聞きデータの整理など放つて早速次の日に出掛てみた。しかし私の行く前に巣の場所の草を巣があるとは知らずに刈り取られてしまいわずか心づくしに立てられたヨモギも葉をしほらかして環境の変わった巣を嫌って寄り付かなくなった親鳥のため卵から孵ったばかりのヒナは死んで腐敗し始めハエがついて見るかげもない有様だった。それでもと附近を調べてみるとホホアカの夫婦が物悲しげに鳴きながら巣の近くを飛んでいた。「あの鳥ですよ」「あれですかホホアカです。開けた草原で高原と言われる所などに見られる鳥で美ヶ原や妙高などには比較的他の鳥よりも多く見られるのです。このように田の畔に巣を作るのは少ないのですが安曇地方では木崎湖の畔や神城、白馬などでぼつぼ



つ見かけます。」と習性などを話してこの状態なら又近くの畔に作りそうですから今度は気をつけて蕃殖させてやって下さいとお願ひしてお礼をのべ別れた。その後雑用に追われてつい尋ねて見る機会もなく時にふれ思い出して気にかけていたら1ヶ月ほどして便りがあり前の巣より10m位はなれた場所に営巣し産卵したと聞き何か重荷を下したような気がした。

7月の下旬白馬村神城の湿原へ水辺の鳥のヒクイナやパンの巣を調査に赴いた折めずらしいセツカを見つけそのあとを追っていた時はからずもホホアカの巣立ち聞もないヒナに合った。5m位はなれた所に腰を下して見ていると親鳥が心配そうに向うの樺杭の上からエサの青虫をくわえて一生果命ヒナに危険を知らせ早く自分の方へ来いと呼んでいた。ヒナは一枝、一枝と親鳥の方へ草むらいに渡って行きやがて草むらにその姿を消してしまつた。無事に成長することを祈つてそつとその場を立ち去つた。

(写真:エサをもったホホアカの親)

## 博物館だより

7月13日～8月11日 夏山とライチョウ展は各種高山植物70点の生体展示と冬期ライチョウ調査の8mm映画とスライドの発表

7月22～27日 第7回山の自然科学教室行なわれる。

お願い 本紙の購読ご希望の方は1カ年購読料300円(郵送料とも)を現金書留または郵便為替、郵便切手で長野県大町市、大町山岳博物館あてご送金下さい。 大町山岳博物館

8月1日 第5回国立公園犬会で本館は厚生大臣表彰を受ける。

7月23～27日 8月7日～8月13日 日本自然保護協会の針ノ木岳総合調査

8月17・18日 市民登山 白馬岳

山と博物館 第8巻第7号 1963年8月25日発行  
発行所 長野県大町市TEL(大町)211  
大町山岳博物館  
印刷所 大町市上仲町  
信州印刷大町工場